

Onomatopoeia(擬音語・擬態語)に関する音韻分類

丹 野 眞智俊

1. Onomatopoeia について

Onomatopoeia (以後、このように記す) については、古くは鈴木 (1816) から多くの研究者によって報告がなされてきている。先ず、Onomatopoeia とは、なにか、について記述し、それをもって本論の Onomatopoeia についての定義としたい。

Onomatopoeia とは、「音による命名、音自身が名にたる」という意味がある。このような意味あいからすると「あるもの、ある現象」を音によって指示すること、「あるものの状態、あるものの発する音」をそのまま音に写すこと、と定義し得る。Onomatopoeia の狭義の定義としては、音響世界の模写を主とする擬音語、音響世界の声を模写する擬声語がある。また、広義の定義としては、事象の状態を象徴する擬態語がある。Onomatopoeia を日本語でいえば「擬声、擬声音、写生語、象徴語、擬音詞、象徴詞、擬容語、擬情語、擬態語、象徴音、音象徴、語音象徴、音楡、音声象徴、音画など」をいう。本論における Onomatopoeia の定義は、狭義・広義を含意する Onomatopoeia を使用することにしたい。

2. Onomatopoeiaの音韻分類

Onomatopoeia の分類のしかたには、いろんな面からの分類が行えるであろうが、本論においては Onomatopoeia を日本語におけるモーラ (新美, 1979) を分類の基本におき、いくつかの音韻のタイプに分類する。現在までにたされ

(7) XY _n 型	ガタン
(8) XtX 型	カッカ
(9) XY: 型	スイー
(10) X:Y 型	スーイ
(11) X:t 型	カーッ

4. 4 拍のもの

(12) XYXY 型	イライラ
(13) XYZY 型	アタフタ
(14) YXZ 型	キソキラ
(15) XYZW-1 型	カサコソ
(16) XYZW-2 型	チョコマカ
(17) XYZW-3 型	ガタピシ
(18) XYZW-4 型	スタコラ
(19) XYZW-5 型	ゴタクサ
(20) XYZW-6 型	ホソワカ
(20) XY _{rt} 型	カラリッ
(22) XY _{rn} 型	カラリン
(23) XtYZ 型	ウッスラ
(24) XtY _r 型	ウッカリ
(25) XtY _n 型	ゴットソ
(26) X _n Y _r 型	アソグリ
(27) XY:r 型	スラーリ
(28) XY:t 型	ジローッ
(29) XY:n 型	ガラーン
(30) X:Y _r 型	フーワリ
(31) X:Y: 型	ガーガー

5. 5 拍のものー5 拍以上はおおまかな分類

(32) XYXYt 型	カラカラッ
--------------	-------

	XYXYn 型	カラカラン
(33)	XtYXY 型	ガッタガタ
	X:YXY 型	ウーロウロ
(34)	XtY:n 型	ドッカーン
(35)	その他の型のもの	コテンパン

6. 6 拍のもの

- (36) 3 拍の同じものが重なって畳語形式になったもの。
 (例) XYZXYZ 型 ウツラウツラ
- (37) 3 拍の異なった形のものを二つにつないだ形のもの。
 (例) XYrZYr 型 チラリホラリ
- (38) 2 拍のものを三つに重ねた彩のもの。
 (例) XYXYXY 型 カリカリカリ
- (39) 4 拍 + 2 拍の型のもの。 ガラガラポン
- (40) その他の型のもの アッケラカン

7. 7 拍のもの (いずれも 4 拍 + 3 拍と見ることができる。)

- (41) 末尾に促音「ッ」を伴っているもの。
 XYXYXYt 型 キラキラキラッ
- (42) 末尾「リ」を伴っているもの。
 XYXYXYr 型 クルクルクルリ
- (43) 末尾「ン」を伴っているもの。
 XYXYXYn 型 カラカラカラン
- (44) 末尾の一つ前に長音が割り込んでいるもの。
 (例) XYXY:n 型 カンカンカーン
- (45) その他の型 ガラガラピシン

8. 8 拍のもの (だいたいにおいて、4 拍 + 4 拍と見ることができる。)

- (46) 異った 4 拍のものを二つ結合させたもの
 XYXYZWZW 型 カタカタコトコト
- (47) 同じ 4 拍のものを二つ重ねて畳語形式としたもの。

3. 音韻タイプの分類

(1) 対象 Onomatopoeia 天沼 (1974) の擬音語・擬態語辞典に掲載されている全 Onomatopoeia (1555個) を対象とした。

(2) 音韻タイプの種類

音韻タイプの種類については、先に延べた天沼 (1974) の音韻タイプの分類に則り、対象 Onomatopoeia 全てを分類した後、Onomatopoeia の数の少ない音韻タイプなどを一括統合し、次のように本論における音韻タイプの種類36種を定めた。

音韻タイプの種類とその例をあげる。

1. 2 拍のもの。

- | | |
|----------|----|
| (1) XY 型 | だん |
| (2) Xt 型 | かっ |
| (3) X: 型 | つー |

2. 3 拍のもの。

- | | |
|--------------|-----|
| (4) XYt 型 | げろっ |
| (5) XYr 型 | ぐらり |
| (6) XYn 型 | ずしん |
| (7) XtY 型 | せっせ |
| (8) XY: 型 | かぁー |
| (9) X:Y 型 | だーん |
| (10) X:t 型 | どーっ |
| (11) XYY など型 | うふふ |

3. 4 拍のもの。

- | | |
|-------------|------|
| (12) XYXY 型 | どんどん |
| (13) XYZY 型 | あたふた |
| (14) XYXZ 型 | きんきら |

(15) XYZW 型	かさこそ
(16) XYrt 型	からりっ
(17) XtYZ 型	ぎっちら
(18) XtYr 型	さっぱり
(19) XtYn 型	がっぽん
(20) XnYr 型	すんなり
(21) XY:r 型	そろーり
(22) XY:t 型	ぐらーっ
(23) XY:n 型	どかーん
(24) X:Yr 型	ゆーらり
(25) X:Y: 型	ざーざー
(26) XYYZ など型	のほほん

4. 5 拍のもの

(27) XYXYt 型	ずらずらっ
(28) XtXtX など型	はっはっは

5. 6 拍のもの。

(29) XYZXYZ 型	ごんごんごん
(30) XYZXYW 型	かたんことん
(3 拍の異種)	
(31) XtXtXt 型	ぴっぴっぴっ

(2 拍のくりかえし)

(32) その他の異種	いけしゃーしゃ
-------------	---------

6. 7 拍のもの。

(33) XYXYXYt 型	ずらずらずらっ
(34) その他の異種	すってんころり

7. 8 拍のもの。

(35) XYZWXYZW 型	かっちゃんかっちゃん
(36) その他の異種	えっちらおっちら

4. 結果

本論においては、各分類項目に属する Onomatopoeia の全てを記述し、音韻の分析などについては大まかな分析にとどめる。詳細な分析については、続報に譲ることにしたい。

Onomatopoeia 各 Table1~36

	1.XY 型	2.Xt 型	3.X:型	4.XYt 型	5.Xyr 型
1	かん	かっ	かー	う	が
2	が	がっ	がー	ふ	か
3	ぐ	きく	きき	く	か
4	ん	く	ぎ	さ	か
5	ん	く	ぎ	さ	か
6	ん	く	ぎ	さ	か
7	ん	く	ぎ	さ	か
8	ん	く	ぎ	さ	か
9	ん	く	ぎ	さ	か
10	ん	く	ぎ	さ	か
11	ん	く	ぎ	さ	か
12	ん	く	ぎ	さ	か
13	ん	く	ぎ	さ	か
14	ん	く	ぎ	さ	か
15	ん	く	ぎ	さ	か
16	ん	く	ぎ	さ	か
17	ん	く	ぎ	さ	か
18	ん	く	ぎ	さ	か
19	ん	く	ぎ	さ	か
20	ん	く	ぎ	さ	か
21	ん	く	ぎ	さ	か
22	ん	く	ぎ	さ	か
23	ん	く	ぎ	さ	か
24	ん	く	ぎ	さ	か
25	ん	く	ぎ	さ	か
26	ん	く	ぎ	さ	か
27	ん	く	ぎ	さ	か
28	ん	く	ぎ	さ	か
29	ん	く	ぎ	さ	か
30	ん	く	ぎ	さ	か
31	ん	く	ぎ	さ	か
32	ん	く	ぎ	さ	か
33	ん	く	ぎ	さ	か
34	ん	く	ぎ	さ	か
35	ん	く	ぎ	さ	か
36	ん	く	ぎ	さ	か
37	ん	く	ぎ	さ	か
38	ん	く	ぎ	さ	か
39	ん	く	ぎ	さ	か
40	ん	く	ぎ	さ	か
41	ん	く	ぎ	さ	か
42	ん	く	ぎ	さ	か
43	ん	く	ぎ	さ	か
44	ん	く	ぎ	さ	か
45	ん	く	ぎ	さ	か
46	ん	く	ぎ	さ	か
47	ん	く	ぎ	さ	か
48	ん	く	ぎ	さ	か
49	ん	く	ぎ	さ	か
50	ん	く	ぎ	さ	か
51	ん	く	ぎ	さ	か

[illegible]

[illegible]

たたくぐやらーべんきぎたらかりどかろくかんや
ふばちはほほかこけまばくすぽもちしかにゃちゅくし
あたくぐやらーべんきぎたらかりどかろくかんや
あじちちちつつてどどのばへほうきじびゅべちゅむ

[illegible]

20. XnYr型	21. XY:r型	22. XY:t型	23. XY:n型	24. X:Yr型	25. X:Y:型	26. XYYn型
あんぐり うんざり ぐんながり こんもり ざんぶり じんわり しんなり ずんがり すんなり ちんまり どんまり にんまり のんまり ひんわり ふんわり ほんわり やんにわり ぐんわり しょんわり	じわり するり そろり とろり どろり ぶかーり	うはーっ がきーっ がばーっ きいーっ ぎいーっ くくーっ ぐうーっ くるーっ ぐるーっ ごおーっ さあーっ ざあーっ じあーっ じろーっ じわーっ すいーう ずいーう すうーっ すらーっ ずらーっ だたーっ だだーっ つつーっ でれーっ どさーっ どたーっ どどーう どぼーっ とろーっ どろーっ にやーっ ひやーっ ふあーっ ふわーっ ぼけーっ ぼけーっ ぼさーっ ぼやーっ もやーっ もわーっ わわーっ びしーっ	うおーん がしーん かちーん がちーん かつーん がつーん がらーん ぐうーん ごろーん ごぶーん ずしーん ずずーん ずとーん ずかーん どかーん どしーん どすーん どたーん どどーん どぶーん どぼーん ぶつーん ぶらーん ぼかりーん じりーん じゃぼーん がしゃーん かちーん きょとーん しゃりーん ちぼーん	ふーらり ふーわり ゆーらり	かーかー がーがー きーきー ぎーぎー くーくー ぐーぐー げーげー ざーざー じーじー すーすー ぜーぜー つーつー どーどー はーはー ばーばー ひーひー びーびー ふーふー ぶーぶー ぼーぼー わーわー	のほほん ぶるるっ

[illegible]

5. 結果の考察

天沼（1974）の Onomatopoeia 音韻タイプの分類を基本として、その一部に修正を加え、36種の音韻タイプに分類したのが表1から表36までに掲載されている。これらについての詳細な分析は他に譲るとして、特に気づいた点について本論では記述し、加えて現時点における Onomatopoeia 研究の意義について見解を述べたい。下の箇条書きは、丹野（1980 a 1980 b）の結果を要約したものである。

- （1）Onomatopoeiaの語頭を各母音でみた場合、数の多い方から「い」「う」「お」「あ」「え」の順にたっている。「え」が最少であることは、金田一（1978）と一致するものである。
- （2）各行でみると「が行」「ば行」などが多く、「ら行」「わ行」などが少ない。
- （3）清音よりも濁音、半濁音が約半数を占めている。
- （4）結果の表にみられる4拍のXYXY型が最も多く、全体の大略3割みられる。この4拍の畳語形式は、畳語の要素（2拍のもの）だけのOnomatopoeia もかなり多い。
- （5）次に多いのは表4にみられるXYt型である。この音韻タイプも2拍のものを要素としているように思われる。
- （6）全体をとおしてみると4拍のものが全体の5割を占め、次に3拍のものが3割ある。これら2つで全Onomatopoeiaの8割も存在する。このことは、日本語の語彙の拍数分析の結果と類似している（天沼，1974）。

以上、結果について箇条的にみてきた。次に Onomatopoeia 研究の意義について現時点の見解を述べる。

- （1）子どもの言語発達において、自分の発する音声の模倣、また自分以外から入ってくる音声系列の模倣（他人模倣）は、子どもの言語習得上大切なものである。この他人模倣こそは、他の音源をそのまま写し発声する、という Onomatopoeia と相通ずるものである。
- （2）鈴木（1816）言うところの写生語は、客観物のそのままの音声模倣であ

るが、この音声を語号化するところから、意味のある指示物としての言語が生ずる（ワンワン、ニャンニャン）。このような記号的意味から象徴的意味への移行の過程を知ることができる。

（３）日本語には、Onomatopoeia 的表現が実に多い。これは日本語の特性とも言えるものであろう。それは自然、人事の写生ということに本質があるのだろうか。Onomatopoeia を分析することから、日本人の特性を考えることができる。

（４）音韻的に興味がある。日本語50音図の中における Onomatopoeia の頻度には、「字」によって差がみられる。これは、Onomatopoeia だけの現象なのであるか、どうか。他の日本語と比較検討することによって日本語の特徴がわかる。

今のところ上の４点を考えている。

6. 要約

（１）天沼（1974）を基本として Onomatopoeia を36種に音韻タイプに分類し、材料として使用した全 Onomatopoeia を記述した。

（２）Onomatopoeia を「語頭母音」「行」によってみるとそれぞれに差がみられた。

（３）Onomatopoeia を音韻タイプの拍数でみるとそれぞれに差がみられた。

（４）Onomatopoeia 研究の意義について現時点における見解を４点述べた。

引用文献

- 天沼 寧編 1976 擬音語・擬態語辞典 東京堂出版
金田一春彦 1978 浅野鶴子編擬音語・擬態語辞典解説 角川書店
小林 英夫 1976 小林英夫著作集5 みすず書房
小嶋孝三郎 1970 オノマトペ研究序説 立命館文学
新美 康永 1979 音声認識情報科学講座 共立出版株式会社
村上 宣寛 1980 音象徴仮説の検討—音素、SD 法、名詞及び動詞の連想法による成分の抽出と、それらのクラスター化による擬音語・擬態語の分析— 教心研Vo1.3.

183-191

- 佐久 問鼎 1939 ゲンタルトの問題と学説 第六輯 音声と言語 内田老鶴圃刊行
鈴木 腺 1816 雅語音声考 鈴木膜頭彰会編 1972 鈴木肢卒藤印刷所
丹野眞智俊 1980 a オノマトペの音韻分析
 (1) 第36回中四国心理学会発表
丹野眞智俊 1980 b オノマトペの音韻分析
 (2) 第41回九州心理学会発表